

哲西の山城

哲西の中世山城

見坂山城	上神代 見坂山	標高412m	築城年 不明
岩高城	上神代 宮の尾	宝道岳 標高547m	築城 天正の頃(1573~1585年)440年
万石城	矢田 金毘羅山	標高536m	築城 仁治年間(1240~1242年)770年
土井城	矢田 土井	標高410m	築城年 不明
豆木城	矢田 城山	標高430m	築城 天文年中(1532~1554)480年
藤木城	畑木 青谷	標高420m	築城 天正年中(1573~1585年)440年
白石城	畑木 四日市	標高426m	築城年 不明
西山城	八島 妻吉山	標高540m	築城 文治元年(1185年)828年
育野城	大野部 川東	標高560m	築城 元応元年(1319年)694年
岸本城	大竹 岸本	標高500m	築城年 不明



哲西町内には、城跡が 10 か所あります。

これらの城は、いずれも鎌倉時代から戦国時代末期にかけて築城されたもので、戦国時代の末期の毛利氏と尼子氏という中国地方二大勢力による抗争に伴い築城されたものが多い。

詳しくは、「やたべ No39」（平成 19. 11. 30 発行）及び「やたべ No43」（平成 25. 12. 1）をご覧ください。



見坂山城

上神代と下神代の境界 JR 芸備線見坂山トンネルの上にあります。見坂山の標高 414mの山頂にあります。

曲輪 1 は、南北 34m、東西 23m。曲輪 2 は、曲輪 1 側で一辺 28m、奥行 10m。曲輪 3 は、曲輪側一辺 28m、奥行 12m。

築城の年は不明です。平成 19 年に測量調査を行いました。

見坂山城は、室町幕府の管領職の細川頼之 管領職というのは、将軍を補佐するという役職で、細

川頼之は足利一門の武将です。

細川頼之の一族の羽場左馬亮頼房が城代として居城。実質は城主であったと思われます。

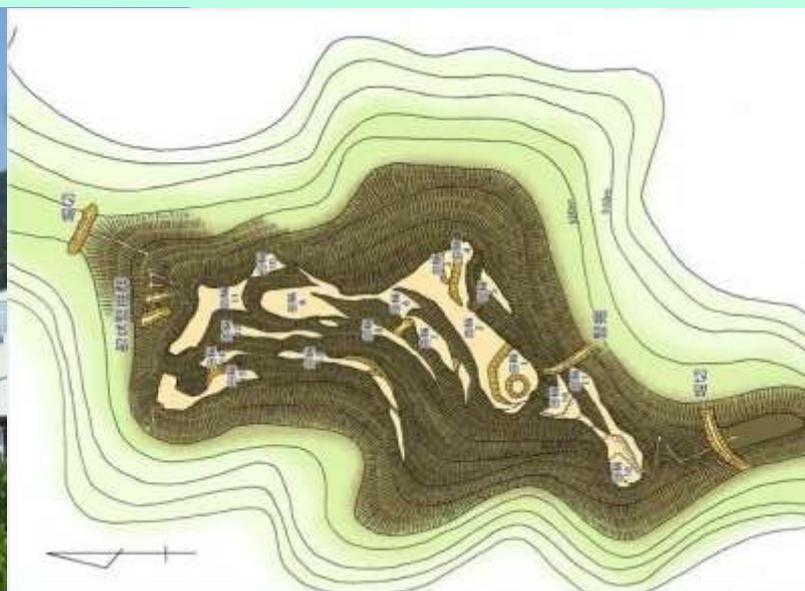
阿哲郡誌によると、子孫相続すること 17 代にして滅びる。山の中腹に城八幡と称する鎮守の祠があります。

羽場氏は、上下神代に 1500 貫の土地を領し、永禄 12 年（1569 年）に油野の八幡原から日尾山に八幡神社を移し迎えた。

城代羽場氏は、羽場左馬亮頼房から五代後に上神代に帰農し、屋号の財徳を興したということです。

下神代の庄屋をした「門前中屋」の羽場は、財徳の分家で長く上神代の日尾山八幡神社の氏子頭で、宮の使いが七度半迎えに行かなければ動かず、羽場氏が座につかなければ祭典ができなかったという。

その後裔が上神代、下神代の羽場姓を称するものだとおられております。



岩高城

赤谷と宮の尾の境界の宝道岳の標高 547m の尾根筋にあります。

曲輪 1 は、全長 50m、幅 10～18m。曲輪 2 は、曲輪 1 の下段に長さ 15m、幅 5～10m。曲輪 3 は、長さ 12～20m、幅 5～7m。

平成 21 年に測量調査を行いました。

天正の頃（1573 年～1585 年）に築城されたと伝えられています。

天正（1573～1585 年）の頃、尼子氏の家臣、大深九郎左衛門信継が築城し、居城したと伝えられています。宝道岳の天険を利用して築城されている。城主の墓が宮の尾に残っているということです。

城についての詳しい資料は、ものは、何も残っていないということです。



万石城

矢田の金毘羅山の標高 536m の山頂にあります。

曲輪 1 は、全長 140m、曲輪 2 は、17m、幅 14m。曲輪 3 は、曲輪 2 の下段に長さ 34m、幅 2~4m。曲輪 4 は、

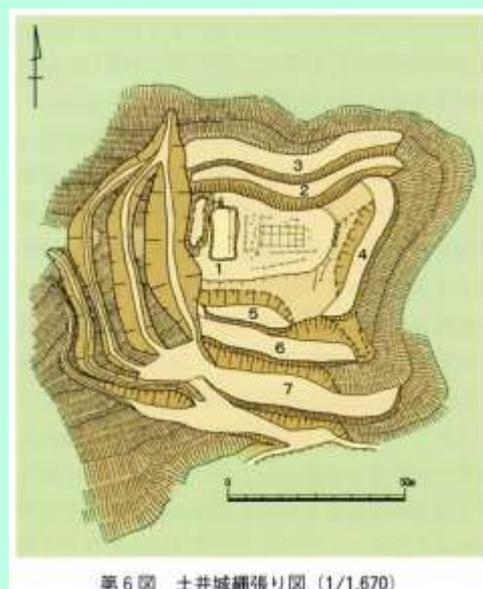
仁治年間（1240 年～1242 年）に築城された。

平成 22 年に調査を行いました。

万石城は、仁治年間（1240－1242）秋庭三郎重信の弟、秋庭四郎重光の築城した。

秋庭三郎重信は、元治元年（1240）、備中路における最大の軍事拠点となる臥牛山の大松山に、初めて城を築き、備中大松山城に居城していた。北条氏の家臣です。

墓が字光坊寺にあるということです。詳しいものは、何も残っていないということです。



土井城

矢田の土井上の標高 410m にあります。

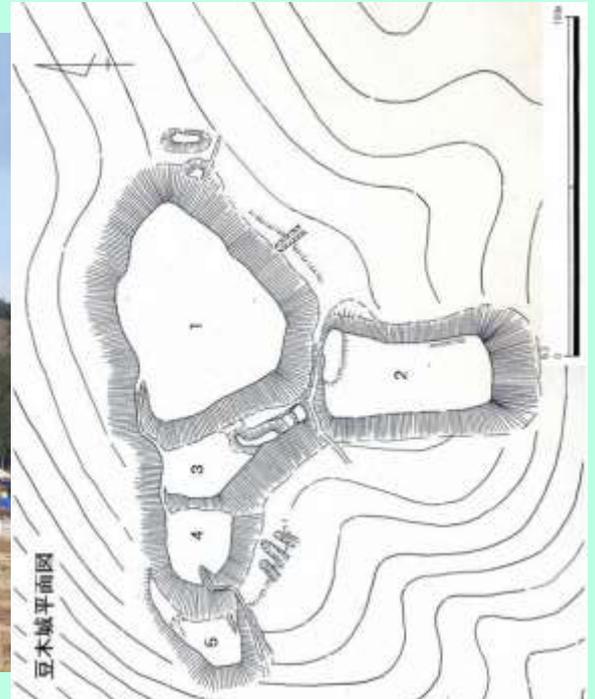
縦貫道建設の折、発見された城跡で、歴史的な史料はありません。

昭和 51 年県教育委員会が発掘調査し、報告書が出ております。

(西方山側に幅 13m・10m・7m の 3 つの堀切がある。

曲輪 1 長さ約 45×幅約 20m。尾根に並行して桁行 5 間×梁行 3 間で、約 12m×約 5.5m の建物が 1 棟ある。

曲輪 1 を中心に北側に曲輪 2・3、南側に曲輪 4・5・6、東側に曲輪 7 がある。



豆木城

矢田と畑木の境界 哲西中学校の向かい側の標高 430m の山頂にあります。

築城年はわかりません。平成 24 年に調査を行いました。

阿哲郡誌によると

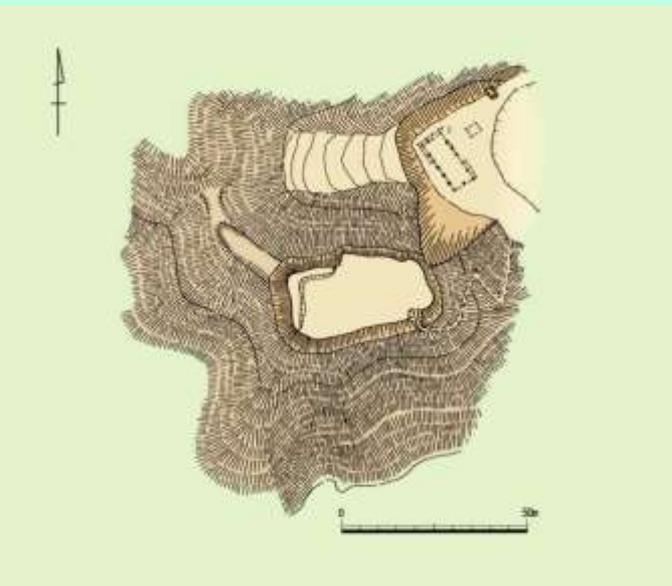
天文年中 (1532～1554) に、吉良丹後守により築城という。

長臣の松尾氏、入江氏はともに二階堂為憲の後胤で、永禄 7 年松尾左衛門義元、入江与兵衛利勝、三村氏に従い伯州日野に戦い軍功あり。

天正 3 年の兵乱には、松尾左馬亮、入江与兵衛ともに松山城に籠城する。

吉良氏もまた毛利氏の兵を受けて、支えることかなわず、城ついに落ちる。

南側の山腹に剣が池があり、刀を洗ったという。南側の下の方でしたが、この池の跡だという所がありました。



藤木城

畑木青谷の標高 420m にあります。天正年中（1573 年～1585 年）に築城されたもの
昭和 51 年縦貫道建設工事に伴い県教育委員会が発掘調査し、報告書が出ております。

城主 吉良常陸守（ひだちのかみ）は、吉良七郎左衛門尉とともに、天正 3 年（1575）の兵乱に松山城に籠城し、武勇の名を残している。



【白石城の沿革】
・白石城として文献記載なし。

白石城測量平面図

白石城

畑木の四日市の標高 426m の山頂にあります。

城の歴史に関するものがなく、築城年など何もわかりません。この度の調査で分かったものです。
平成 23 年に調査を行いました。



西山城

八鳥の町の野馳小学校裏、標高540mの要害山山頂にあります。文治元年（1185年）築城されたものです。

平成19年に調査が終わりました。

西山城は、平家が滅亡する文治元年（1185年）今から827年前、源頼朝の命により家臣の市川行房が野馳の郷に使わされ、築城したものです。

その後天文2年（1533年）今から479年前、毛利の家臣で、備後国西城の城主宮隆盛によって全面改修され、城番が置かれるようになったということです。

天文4年から天文5年頃に改修され、何らかの理由により、一旦手を離れていましたが、西城の城主宮隆盛・小奴可の亀山城主宮隆盛が尼子詮久（あきひさ）の命により、備中内群集と呼ばれた新見国経（くにつね）・丹治部・伊達・石蟹とともに攻められ、占拠されました。

城のある八鳥は、天文12年（1543年）の夏ころから翌天文13年初頭頃、大内方となっていた宮高盛が尼子方の三村家親・榑崎・草刈によって攻め込まれ、八鳥・二本松の合戦の舞台ともなったようです。

今のこの縄張りは天文2年頃の様子をそのまま今日に伝える希少な山城と言えます。

八鳥は、城下町として備後と備中を通じる吹屋街道の要地でもあり、寺院の跡が沢山あり、昔の繁栄が偲ばれます。（曲輪1 長辺40m×幅約29m、北東側隅に幅約2m高さ1mの土塁が東側に12m南側に8mの逆L字状にある。

曲輪2 長辺47m×幅約20mの矩状、面積710㎡・曲輪3 曲輪1と2の間に南北18m、東西14mの長方形。

曲輪4 曲輪1より約2m低く、南北14m、東西18m。

曲輪5 曲輪3と4の下段に全長140m。南端8の個所に正門となる虎口がある。

曲輪6 曲輪2の南と西側に曲輪2より2m低く東西約43m、幅約7mのコの字型。



育野城

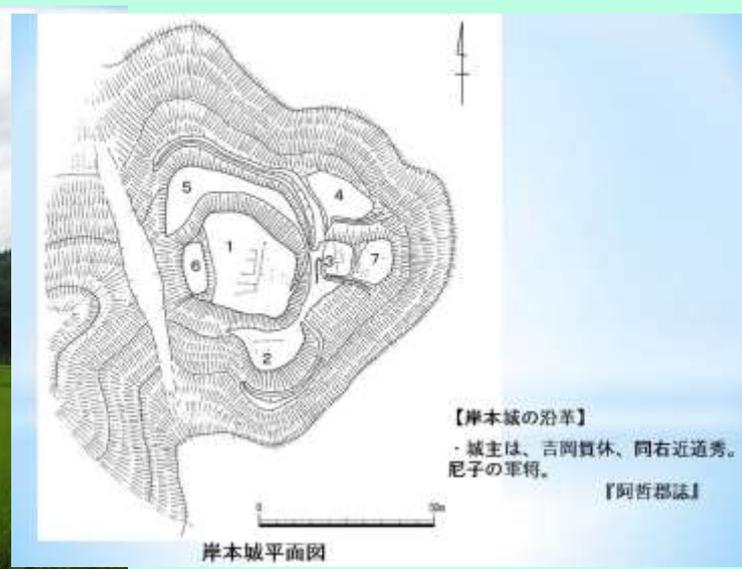
大野部の川東の標高 560m 六月山山頂にあります。元応元年（1319 年）築城されました。
平成 22 年に調査しました。

府誌によると城主は齋藤長門守景忠、摂津国（大阪府北西部と兵庫県南東部の旧国名）西成郡津村の領主より、苗字を津村と名乗りこの地に来た。とあります。

慶長年中に津村監物忠直が相続する。近世、育の字を誤って六月山と呼ぶ。太平記にあるように元弘乱に（1331 年）六波羅の下知として（幕府の命令として）二条家を預かる。

一説によると育野城は、元応元年（1319 年）齋藤尾張守景宗の開基。建武 2 年（1335 年）細川左近将監快房。暦応 3 年（1338 年）吉良采女。康永元年（1342 年）兵火により城郭を焼き尽くす。

応永 4 年（1397 年）国頭下野守再築を図ったが、できなかった。明応 6 年（1497 年）野部冠者快光再築。



岸本城

大竹の標高 500m の山上にあります。昭和 51 年縦貫道建設工事に伴って、県の教育委員会の手によって、発掘調査が行われ、報告書が出されています。

尼子方の城で、城主は吉岡質休、同右近道秀で、越中国 富山県に在名があります。

吉岡氏は管家の末裔といわれ、武功に秀で、褒賞を得て因幡（現鳥取県東部）よりこの地に移ってきたということです。

皆さん方がよく知っておられるように、麓からも良く見える城の名前を書いた大きな看板が立てられています。が最近竹が茂って見えなくなっています。